

細胞まかせの人生

せっかちなナマケモノ

唐突ですが、私たちの体には、推定で約37兆個もの細胞があるそうです。そのうち7割ほどが赤血球で、数だけでいえば圧倒的多数派なのだとか。身体の隅々まで酸素や栄養を運ぶのは、それだけ大変な仕事だということでしょうか。

こうした体の細胞たちが働く姿を描いた作品があります。『はたらく細胞』です。漫画として誕生し、2024年頃には映画化もされているのでご存知の方もおられるかもしれませんが、実は絵本にもなっており子供たちにも知られています。

そうとはつゆ知らず、ある日、がん健診の通知を見ながらがんの話をしていたら、我が家の5歳児が「それってNK細胞の敵でしょ？」と会話に割り込んできました。調べると、NK細胞（ナチュラルキラー細胞）というのは、がん細胞を検知して増殖を抑える重要な免疫細胞のことでした。「え、天才？」と思いきや、保育園で『はたらく細胞』の絵本が流行っていて、そこにNK細胞が登場するとのこと。

何度教えても、エレベーターを「エベレーター」、百貨店の高島屋を「たかしま」と言い間違えるのに、子どもというのは、興味を持ったことであればひとりでに覚えるから不思議です。

そんなこんなで『はたらく細胞』を見てみましたが、細菌と戦う白血球や傷口をふさぐ血小板などの親しみある細胞ばかりでなく、感染細胞と戦うキラーT細胞や様々な機能を持つマクロファージなど、体内で働く多様な細胞が魅力的なキャラクターとして擬人化されて描かれていました。ほとんど知らなかった細胞たちの奮闘のドラマを眺めていると、自分の体のことなのに人まかせ（細胞まかせ）で生きているんだなと思えてきます。

『はたらく細胞』は、医学の本ではありません。難しいことを覚えなくても、体ってすごいなと素直に思える作品です。もし機会があったら、ぜひ一度ご覧になってみてください。見終わる頃には、自分の体に対する見方が、少しだけ変わっているかもしれません。



『はたらく細胞 公式アニメ完全ガイド』
(講談社)



『絵本 はたらく細胞 4 注射はこわくない！熱中症とおたふくかぜ』(講談社)

出所：講談社HP

<https://www.kodansha.co.jp/comic/products/0000348736>